

## 第17回 埼玉ミニキャンプ 報告

マネージャー: 島村隆博  
サブマネージャー: 出井一紀

- 1 期間: H30 9/22(土)~24(月)
- 2 場所: 県民活動総合センター
- 3 総合指導: 谷 浩一(京都市立西総合支援学校)
- 4 SV(班長): 篠原弥生、出井一紀、菅原恵(いずれも県内特別支援学校)
- 5 トレーニー: A君(15才・中学校)、B君(10才・特支)、Cさん(20才・事業所)、Dちゃん(5才・保育園)、E君(11才・特支)、F君(16才・特支)、Gさん(38才・入所施設)、H君(14才・小学校)、Iちゃん(10才・特支)、J君(11才・特支)
- 6 トレーナー: 青森県特支1名、県内特支7名、静岡県スクールカウンセラー1名、大学院1名、サブトレーナー4名(県内特支)
- 7 テーマ: 「動作法の東南アジアにおける展開~タイキャンプに学ぶ~」



### 8 キャンプの概要

#### (1) 講演会

今回は、第2, 3回以来14年ぶりに谷先生に埼玉にお越しいただきました。  
まずは基本的な「臨床動作法について」、1960年代からの心理リハビリテイ

ションの歩み、そして考え方、26年にわたる京都キャンプ及び教員経験の中での具体的な効果事例、そうした上での後半は20年弱にわたるタイキャンプの紹介でした。

バンコク、サムロー、市場の風景、スタート当初のセミナーの様子（小西先生や成瀬先生 etc）、FDAやバーンノック学習センター主催キャンプの様子、現在の発展やタイ保護者の熱心さ等すべてが刺激的でした。（・・・埼玉全然負けている！？）

## （2）インテーク・研修・動作法

初日午後、トレーニー全員一人につき10分程度、谷先生からインテークいただきました。タテ系の課題に入る前にまずは身体の固さはどうかな？、長坐位での股や足首ゆるめ、軀幹ひねり・・・ことごとく、「埼玉のトレーニーは、腰回りだけでなく、みんな足首や肩もカチコチだね。」とのこと。SVとして、反省しきりでした。

今回、ほとんどがキャンプ初参加のトレーナーだったこともあり、実技研修は、（成瀬先生直伝の）軀幹ひねり、あぐら坐位での背反らせ、膝立ちでの補助の仕方等基本的なことの確認を徹底しました。また、動作法の時間の後に毎回班別ミーティングを入れてから次の関わりに臨むというのが埼玉の特徴です。その成果か、初心者のトレーナーが多いのにもかかわらず、全体ミーティングの発表のうまさはビックリでした。

動作法の時間、初日—2日目—最終日と絵に描いたようにトレーナーが上達していました。具体的には、「トレーニーとしっかりと向き合う。」「結果よりその過程でのやり取りを大切にする。」姿勢です。ベテラントレーニーに学ぼうとお互い思考錯誤し苦勞している景色を味わえる充実感、マネージャーとしての役得でした。

・・・最終日のトレーナーの感想を伺うと、「埼玉の動作法のセンター的役割」少しは果たせたかとほっとしました。

## （4）運営・その他

さて、個々のトレーニー・トレーナーの動作法での成果は・・・ケースレポートに託したいと思います。今回マネージャーとして感じたことですが、一つは谷先生への感謝です。保護者研修で、タイキャンプの経過を情報提供していただき、ものすごい反響でした。「タイの保護者がそんなに頑張っているのに、私たちものんびりしている暇はない」そんな雰囲気でした。また、去年はトレーナーが全く集まらなかったのに対し、今回は、蓮田特別支援学校と越谷特別支援学校の多くの若手教員中心に学び合えたこと、本当にうれしく思います。

キャンプ運営については、谷先生から「5分前行動」の徹底について（本当に基本的なことですが）ご指導受けました。最終日には肉声だけでなく「呼び鈴」の使用で少し意識づけできました。そう言えば14年前も、何かさびしいから「歌を歌おう」との谷先生からのご指導で、伝統的な「世界で一つだけの花」が始まりました。始まりや終りの会等係り活動もまだまだです。今後も、動作法だけでなく、「心理リハ」ならではの研修のうまみも継続していきたいと考えます。